

大学の世界展開力強化事業 取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアムの下で両国の学士・修士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティーに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6大学コンソーシアムの下、事業を統括し、評価する体制を整備

日本・インドネシア6大学(愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大)で構成するSUIJIコンソーシアムの下に、サーバント・リーダー養成センターを組織し、教育効果の評価・改善・相互チェックを統括する体制を整備した。

○ 6大学でプログラム実施の枠組み形成と共通基準の検討

6大学でプログラムの枠組みと実施体制に関する覚書を作成。また、6大学の教員が、学生の到達度を相互に評価し、質を保証するための共通評価基準の検討を開始した。

○ 教員間の情報共有システムの整備

独自サーバーを立ち上げ、Moodle等を活用し、国内3大学の担当教員間で教材や教育の進捗等をインターネットを通じて随時共有できる体制整備を開始した。



〈6大学会議でプログラムの枠組みと実施体制について協議: H25年3月、インドネシアにて〉

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



〈日本でのサービラーニングの試行: H24年10月〉

○ サービラーニング・プログラムの試行

日本・インドネシアの学生がともに農山漁村地域に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを、愛媛大学を拠点に2回試行(H24年10~12月とH25年3月)。この試行をもとに、H25年から本格始動するサーバント・リーダー養成プログラムのカリキュラムの検討を行った。

○ 大学院共同学位プログラムを開始

日本・インドネシア双方で共同研究が可能な6教育研究分野(森林、水循環、土壌、食品科学、植物環境制御、海洋生産)で共同学位プログラムを開始し、修士学生の派遣・受入を行った。

○ 外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる外部評価委員会を開催(H25年3月)。プログラム実施内容を検証し、助言をえた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

共同学位プログラムとして、愛媛大学の修士課程学生2名をインドネシアに派遣した(H24年11月~)。

○ 外国人留学生の受入

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計14名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生5名を受け入れた(H25年3月~)。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	51	69	80	97
学生の受入	19	37	55	61	69

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 専任教職員の配置

プログラムの実施・運営にあたる専任教員を愛媛大学に2名(日本人とインドネシア人)、高知大学に1名配置し(香川大学にはH25年4月から配置)、愛媛大学には専任職員2名も配置した。インドネシア3大学ではプログラムを担当するコーディネーターが選任され、6大学で学生の派遣と受入を促進し、プログラムを実施・運営する体制が整備された。

○ 派遣・受入手続きをめぐる覚書の合意

特に長期留学を伴う共同学位プログラムに関しては、在籍大学における派遣学生の選抜、派遣・受入の手続きについて6大学で覚書に合意した。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ パンフレット作成、ホームページ開設

サーバント・リーダー養成プログラムの教育内容・カリキュラムを紹介するパンフレットを作成した。また、プログラムの進捗・成果を発信する基盤としてホームページを開設した。

